

(様式5)

調査報告書

外部評価項目構成

	項目数
・理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

訪問調査日	2007年 8 月 10 日
調査実施の時間	開始 10 時 30 分 ~ 終了 2 時 20 分

訪問先事業所名 (都道府県)	グループホーム さざなみ (大阪府)
-------------------	-----------------------

評価調査員の氏名	氏名 南 ヤエ
	氏名 谷 昭子
事業所側対応者	職名 代表者
	氏名 林 康夫 ヒアリングを行った職員数 (2)人

記入方法

「取り組みの事実」欄は、ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入してください。

「取り組みを期待したい項目」欄は、今後、さらに工夫や改善が必要と思われる項目に をつけてください。

項目番号について

外部評価項目は30項目です。

「外部」にある項目番号が外部評価の通し番号です。

「自己」にある項目番号は自己評価で該当する番号です。参考にして下さい。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。

(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。

関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

【評価実施概要】

事業所番号	2775003151
法人名	有限会社さざなみ
事業所名	グループホームさざなみ
所在地	東大阪市加納7-12-23 (電話)072-873-9550
評価機関名	NPO法人 エイジコンサーン・ジャパン
所在地	大阪市住之江区南港北2-1-10 ATCビル ITM棟 9階
訪問調査日	2007年8月10日(金)

【情報提供票より】(2007年 8月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 5 月 15 日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	10 人 常勤7人, 兼務1人, 非常勤2人, 常勤換算4.125人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	3 階建ての 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	75,000 円	その他の経費(月額)	25,500 円	
敷 金	有 (円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (300,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 950 円			

(4) 利用者の概要(8月 1日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護 1	2	要介護 2			
要介護 3	5	要介護 4	2		
要介護 5		要支援 2			
年齢	平均 歳	最低	72 歳	93 歳	

(5) 協力医療機関 西村クリニック

協力医療機関名	西村クリニック
---------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

認知症高齢者が精神的に安定し安全に生活できるグループホームは、まだまだもっと必要になる。そのためにも庶民的なグループホームを増やさないといけない、との信念・理念に燃えて運営に携わっている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	一人になれるスペースの工夫。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目	一人になりたいときは居室でというのではなく、広い中で一人になれる居場所造りによりいっそうの工夫を期待する。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議・市町村との連携などは取れている。 会議の中で話したことは運営に活かされているが、記録が整備されていない。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 家族から特に不満は出ていないがそれに甘んじることなく入居者の生活の様子を月に1回くらいは家族に届けるように最善の努力を期待する。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の自治会に入っているが具体的な関わりは余りできていない。今後どのように取り組むことが入居者・地域にとって良いのか推進会議などで話し合っていくことを期待する。

2. 調 査 報 告 書

主任調査員氏名 南 ヤエ / 同行調査員氏名 谷 昭子

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを 期待したい項 目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念 は 「ゆったり・楽しく・自由に」		自由に・楽しく暮らせているように見受けられた。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝理念を声を出して唱和している。 申し送り事項の共有を図って入る		各入居者の日常の記録は詳細で毎日の介護に生かされている。
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に入っている。地域の人たちと出来るだけ交流できるように地域の催し物には出来る範囲の参加をしている。		地域のお祭りはホームの1階玄関で見物をして地域の一員という自覚にもつなげている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価をしっかり受け止め改善すべきところは改善に向け努力している。		前回の外部評価を掲示板に張り出し家族・来訪者に良く見えるようにしている。しかし前回指摘されて出来ていないところも見受けられる。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議を2ヶ月に1回開いている。</p>		<p>推進支援会議はきっちり開かれている。避難訓練など地域の役職者などの協力も得て会議の成果としている。議事録を整理して誰にでも見てもらえるように整備されたい。</p>
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市町村担当者とは何かあれば協力できるようにしている。</p>		<p>何かあるときには市の高齢者介護室・福祉事務所に相談している。包括支援センターから運営推進会議に出てもらっているなど、しっかり連絡体制を取っている。</p>
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族へのお便りを6ヶ月に1度担当者を決めて報告している。</p>		<p>6ヶ月に1度というのはお便りとしては少ない。せめて1ヶ月に一度「さざなみ便り」(仮称)などを出しその中に各個人宛の欄を設けるなど工夫が望まれる。</p>
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会時など意見要望などの収集に努めている。</p>		<p>家族には特に不満は無かったが、意見などを言いやすい仕組みを作る(意見箱などを設置する)方法も検討されたい。</p>
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>本人の意思を尊重しつつ移動や離職を最小必要限に抑える工夫をしている。</p>		<p>離職などの場合は静かに入居者の方々に刺激を与えないような配慮をしている。</p>

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	市町村の研修には積極的に参加の申し込みを行っている。		研修に参加した人だけでなく全職員が研修内容を共有できるような工夫が望まれる。
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	圏域でグループホームの交流会を行っている。		同業者との交流は問題点の持ち寄り・解決だけでなくお互いの仕事に対する意欲を引き立たせてくれるものと思われる。
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	利用者のペースに合わせ、ゆとりある対応を心がけている。		担当者が代わったときなど利用者に声を掛け納得されてからはじめるようにしているとのことである。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	利用者は、私たちの人生の先輩であることを心にとめ、共に支えあう関係を築いている。		入居者の方で上手に話をまとめていく方も居て、その時は職員も見守っている。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者一人ひとりの思いや暮らしかとの希望、意向の把握に努めている。</p>		<p>入居者のそれぞれの生活歴などを聞いて暮らし方の希望を出来るだけ取り入れる努力をしている。</p>
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人、家族等、職員に意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>		<p>入居者に特に異常の無い限り、介護計画の見直しは入居者の日常の様子を踏まえ家族等、医師の意見も入れて3ヶ月に1度作成している。</p>
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>見直しを行う必要が生じたときはご家族と連絡を取り合い現状に即した新たな計画を作成している。</p>		<p>介護計画の時期に関らず、入居者の容態に応じて家族、医師と共に見直しをしている。</p>
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>事業所の多機能性を生かした支援をしようとしている。</p>		<p>今のところ高齢者認知症グループホームのみの介護である。</p>

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>いつ連絡しても連絡が取れる、又急変の時はすぐに来所して下さる。</p>		<p>かかりつけ医師が月2回の定期健診、それ以外入居者が熱が出たとき、少しの体調の異変などでも直ぐに診に来てくれる。夜中でも同じである。歯科は歯の治療月2回口腔ケア月2回来てもらっている。。</p>
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>重度化した場合や終末期のあり方について、出来るだけ早いときに家族等と話し合っている。</p>		<p>終末期の介護について入居者・家族の要望を尊重し施設で終末を迎えたいとの希望があればしっかり対応するとの方針を確認した。又重度化に対応できる体制づくりを望む。</p>
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>一人ひとりのプライバシーの確保に努めている。</p>		<p>入居者の個人情報の保護は職員にも申し渡してあり、入居契約の中にも守秘義務の条項を入れている。</p>
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>利用者一人ひとりのその人らしい暮らしを出来るように支援している。</p>		<p>施設の中での生活は強制にならないよう、利用者の思いに添うような介護をこれからも続けることを期待する。</p>

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。		全員ではないが食事の準備・片付けを入居者と一緒に行っている。食事献立も35日を1サイクルとして変化をもたせた食事を作っている。調査日の食事味付け・量・調理加減(硬さ・軟らかさ)も丁度良かった。
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴を楽しめるように支援している。		入浴は原則として毎日入られる。入浴順を公平にするための方法を入居者自身が説明してくれた(お風呂の順番は自主運営がされている)。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	お手伝い、ゲーム、レクリエーション等に役割を持っていただくように支援している。		その日より時間はまちまちであるが毎日のようにカラオケをして楽しんでいる。不定期では有るがハーモニカの演奏のボランティアも来てくれて変化のある生活をしている。
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	週3～4回散歩して頂けるように支援している。		散歩は2人～3人づつ近所の公園に隔日で行っている。食事会は希望者でファミリーレストランに時々行く。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	危険な場所以外は鍵をかけないよう取り組んでいる。		グループホームは2階にあり1階からの階段はかなり急で危険と言わざるを得ない。散歩など出かけるときはエレベーターを使って出かけるが此処も日常的には鍵が掛かっている。「安全性と閉塞感の無いホーム」この難しい問題を乗り越えられることを期待する。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署、自治会等と話し合い協力を得られるように働きかけている。		推進支援会議のときに議題として取り上げ、その後消防署、自治会の協力を得て緊急避難訓練をした。消防署からビデオを借りて防災の意識を高めたり災害対策は意欲的に対応している。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	生活記録、排泄記録を通して一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。		生活記録・排泄記録・水分摂取の記録は丹念に取られている。その結果入居者個人の状態を良く把握し適切に支援している。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地のよい共用空間づくりに工夫している。		食堂・居間は広く明るいが一人になる居場所はない。食事時間以外の食卓の利用を提案する。食卓の横に明るい色のちょっとした立程度のものを置き、仕切ることによって充分独りの居場所は確保出来ると考える。
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室では家族の写真など本人が心地よく過ごせるようく風している。		各居室は各自好きなものを持ち込みそれぞれ独自性のある部屋となっていた。

は、重点項目。